

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

|                |                                    |             |    |     |   |      |                     |     |    |
|----------------|------------------------------------|-------------|----|-----|---|------|---------------------|-----|----|
| 授業科目名<br>科目コード | ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ)<br>264046-14000 |             |    |     |   | 担当教員 | 牧野 智一<br>(マキノ トモカズ) |     |    |
| 科目区分           | ゼミナール科目                            | 必修・<br>選択区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 4年次                 | 開講期 | 通年 |
| 科目特性           | 地域志向科目／知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL        |             |    |     |   |      |                     |     |    |

|  |
|--|
| ① 授業のねらい・概要  |
| <p>牧野ゼミナールⅣでは、ゼミナールⅢで学修した財政の知識に基づき、ゼミ生自身が関心を持つ財政や経済に関するテーマを設定し、個別にそのテーマについて調査・研究を行なう。</p> <p>また、ゼミコンパやゼミ旅行など様々なイベントを学生諸君に企画してもらい、ゼミ生同士が大学を卒業した後もお互いに支え合えるような生涯の友人関係を構築できることを目指します。</p> |
| ② ディプロマ・ポリシーとの関連   |
| <p>地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を養う。</p>   |
| ③ 授業の進め方・指示事項  |
| <p>ゼミ生による発表形式で授業を行う。</p>   |
| ④ 関連科目・履修しておくべき科目  |
| <p>「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「財政学」「ゼミナールⅢ」の知識を有すること。</p>   |
| ⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安  |
| <p>(i) 卒業論文のテーマ設定と構成について教員の支援にほとんど頼ることなく、自らの力で考えることができる。</p> <p>(ii) 指定された形式にあった卒業論文を教員の支援にほとんど頼ることなく、自らの力で作成できる。</p> <p>(iii) テーマに沿ってある程度論理的に考察ができる。</p>                              |
| ⑥ テキスト（教科書）  |
| <p>特になし。各自の卒業論文のテーマに沿った図書を用いること。</p>   |
| ⑦ 参考図書・指定図書  |
| <p>竹内信仁編(2013)『スタンダードミクロ経済学』中央経済社<br/>         竹内信仁編(2013)『スタンダードマクロ経済学』中央経済社<br/>         竹内信仁編著(2007)『スタンダード財政学 第2版』中央経済社<br/>         『図説日本の財政』（各年度版）</p>                           |

| ⑧ ルーブリック          |                         |   |  |   |  |
|-------------------|-------------------------|---|--|---|--|
| 評価項目              | 評価基準                    |   |  |   |  |
|                   | S<br>到達目標を越えたレベルを達成している | A<br>到達目標を達成している                                  | B<br>到達目標達成にはやや努力を要する                            | C<br>到達目標達成には努力を要する                             | D<br>到達目標達成には相当の努力を要する                 |
| (i) 卒業論文のテーマ設定と構成 |                         | 卒業論文のテーマ設定と構成について教員の支援にほとんど頼ることなく、自らの力で考えることができる。 | 卒業論文のテーマ設定と構成について教員の支援にかなり頼ることのできる。              | 卒業論文のテーマ設定と構成について教員の支援にかなり頼ることのできる。             | 卒業論文のテーマ設定と構成について教員の支援を受けても考えることができない。 |
| (ii) 卒業論文の作成      |                         | 指定された形式にあった卒業論文を教員の支援にほとんど頼ることなく、自らの力で作成できる。      | 指定された形式にあった卒業論文を教員の支援にかなり頼ることのできる。               | 指定された形式にあった卒業論文を教員の支援にかなり頼ることのできる。              | 指定された形式にあった卒業論文を教員の支援を受けても作成できない。      |
| (iii) 卒業論文による考察   | テーマに沿って論理的に適切な考察ができる。   | テーマに沿ってある程度論理的に考察ができる。                            | テーマに沿っていなかったり、論理的でなかったりする部分が少なからずあるが、ある程度考察ができる。 | テーマに沿っていなかったり、論理的でなかったりする部分がかなりあるが、それなりに考察ができる。 | テーマに沿って論理的に考察ができない。                    |

| ⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法 |                          |      |    |      |       |           |     |      |
|------------------------------------|--------------------------|------|----|------|-------|-----------|-----|------|
| 学習到達目標（評価項目）                       | 試験                       | 小テスト | 課題 | レポート | 発表・実技 | 授業への参加・意欲 | その他 | 合計   |
| 総合評価割合                             |                          |      |    | 50%  | 20%   | 30%       |     | 100% |
| (i) 卒業論文のテーマ設定と構成                  |                          |      |    | 10%  | 6%    | 8%        |     | 24%  |
| (ii) 卒業論文の作成                       |                          |      |    | 10%  | 6%    | 10%       |     | 26%  |
| (iii) 卒業論文による考察                    |                          |      |    | 30%  | 8%    | 12%       |     | 50%  |
| フィードバックの方法                         | 卒業論文の内容のチェックとアドバイスを適宜行う。 |      |    |      |       |           |     |      |

| ⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）                     |
|--|
| 知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用し、学生諸君が主体的に学修することを意識した授業を目指して行く。 |

| ⑪ 授業計画と学習課題 |                     |                              |     |
|-------------|---------------------|------------------------------|-----|
| 回数          | 授業の内容               | 授業外の学習課題と時間（分）<br>（※特別な持参物）  |     |
| 1           | オリエンテーション           | 卒業論文のテーマとなりうる経済や社会情勢の情報収集    | 60分 |
| 2           | 卒業論文のテーマ設定に向けた議論    | 卒業論文のテーマの方向性の検討              | 60分 |
| 3           | 卒業論文のテーマ案作成のための資料収集 | 卒業論文のテーマの方向性に沿った資料収集         | 60分 |
| 4           | 卒業論文のテーマ案の作成        | 卒業論文のテーマ案を2, 3個考える           | 60分 |
| 5           | 卒業論文のテーマ案についての議論    | 考えた卒業論文のテーマ案の内容整理            | 60分 |
| 6           | 卒業論文のテーマ設定と全体報告     | 全体報告のための資料の作成                | 60分 |
| 7           | 卒業論文のテーマに関連する資料収集等  | 構成の作成のための資料収集等               | 60分 |
| 8           | 卒業論文の構成の作成に向けた議論    | 卒業論文の構成案の作成のための設定したテーマの課題の考察 | 60分 |
| 9           | 卒業論文の構成案の作成         | 考察した課題に基づく卒業論文の構成案の作成        | 60分 |
| 10          | 卒業論文の構成案についての議論     | 議論の結果を受けての構成案の方向性の検討         | 60分 |
| 11          | 卒業論文の構成案の修正のための資料収集 | 卒業論文の構成案の修正のための資料収集          | 60分 |
| 12          | 卒業論文の構成案の修正         | 卒業論文の構成の修正案の作成               | 60分 |
| 13          | 卒業論文の構成の修正案についての議論  | 議論の結果を受けての構成案の再検討            | 60分 |
| 14          | 卒業論文の構成案の確定に向けた議論   | 卒業論文の構成案の確定と資料収集             | 60分 |
| 15          | 卒業論文の構成案の確定と全体報告    | 全体報告のための資料の作成                | 60分 |
| 16          | 卒業論文の作成と個別論文指導      | 卒業論文の全体の6分の1程度まで作成           | 60分 |
| 17          | 卒業論文の作成と個別論文指導      | 卒業論文の全体の6分の1程度までの修正と加筆       | 60分 |

|    |                |                        |     |
|----|----------------|------------------------|-----|
| 18 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文の全体の6分の2程度まで作成     | 60分 |
| 19 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文の全体の6分の2程度までの修正と加筆 | 60分 |
| 20 | 中間報告会と議論       | 中間報告のための資料の作成          | 60分 |
| 21 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文の全体の6分の3程度まで作成     | 60分 |
| 22 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文の全体の6分の3程度までの修正と加筆 | 60分 |
| 23 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文の全体の6分の4程度まで作成     | 60分 |
| 24 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文の全体の6分の4程度までの修正と加筆 | 60分 |
| 25 | 中間報告会と議論       | 中間報告のための資料の作成          | 60分 |
| 26 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文の全体の6分の5程度まで作成     | 60分 |
| 27 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文の全体の6分の5程度までの修正と加筆 | 60分 |
| 28 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文全体を作成              | 60分 |
| 29 | 卒業論文の作成と個別論文指導 | 卒業論文全体の修正と加筆           | 60分 |
| 30 | 卒業論文の確認と提出     | 卒業論文の完成                | 60分 |

|  |
|--|
| ⑫ アクティブラーニングについて   |
| 知識定着・確認型AL/協同学修型ALを採用する。ゼミ生による調査・研究の内容報告やディスカッションを行い、学修効果の向上に活用する。 |

※以下は該当者のみ記載する。

|                    |
|--------------------|
| ⑬ 実務経験のある教員による授業科目 |
| 実務経験の概要            |
|                    |
| 実務経験と授業科目との関連性     |

